

那覇港長期構想検討委員会

(第6回委員会)

日時：令和4年3月29日(火) 14:00~15:54

場所：ロワジールホテル那覇 天妃の間

【名 簿】 (順不同・敬称略)

学識経験者

委員長	須野原 豊	公益社団法人 日本港湾協会理事長	出 席
委員	池田 良穂	大阪府立大学名誉教授	出 席
委員	大森 保	琉球大学名誉教授	(WEB)出 席
委員	富川 盛武	沖縄国際大学名誉教授	(WEB)出 席
委員	玉城 絵美	琉球大学工学部教授	(WEB)出 席
委員	渡邊 豊	東京海洋大学海洋工学部	出 席
委員	神谷 大介	琉球大学工学部准教授	出 席
委員	宮國 薫子	琉球大学国際地域創造学部准教授	出 席

港湾・地元関係者

委員	島袋 完徹	一般社団法人 沖縄港運協会会長	出 席
委員	新垣 盛雄	一般社団法人沖縄旅客船協会会長	(代理)前里 正
委員	上原 亀一	沖縄県漁業協同組合連合会会長	欠 席
委員	山城 博美	那覇港振興協議会会長	(WEB)出 席
委員	新垣 旬子	一般社団法人 沖縄県貿易協会会長	(WEB)出 席
委員	新城 英一	公益社団法人 沖縄県トラック協会副会長	出 席
委員	豊里 友亨	一般社団法人 沖縄県倉庫協会会長	出 席

経済・観光関係者

委員	金城 克也	一般社団法人 沖縄県経営者協会会長	出 席
委員	石嶺伝一郎	沖縄県商工会議所連合会会長	(WEB)出 席
委員	渡邊 克江	一般社団法人 那覇市観光協会副会長	出 席

委員	當眞 嗣正	一般社団法人 浦添市観光協会会長	欠 席
委員	下地 芳郎	一般財団法人沖繩観光コンベンションビューロー会長	欠 席

国・関係地方公共団体

委員	大河内克朗	海上保安庁那覇海上保安部部長	出 席
委員	宮城 吉和	財務省沖繩地区税関総務部長	出 席
委員	知念 覚	那覇市副市長	(WEB)出 席
委員	大城千栄美	浦添市副市長	(WEB)出 席
委員	小澤 康彦	内閣府沖繩振興局参事官	(WEB)出 席
委員	坂井 功	内閣府沖繩総合事務局開発建設部長	出 席
委員	米山 茂	内閣府沖繩総合事務局運輸部長	(WEB)出 席
委員	宮城 力	沖繩県企画部部長	(WEB)(代理)金城 康司
委員	松田 了	沖繩県環境部部長	(WEB)(代理)新城 光雄
委員	嘉数 登	沖繩県商工労働部部長	(WEB)(代理)小渡 悟
委員	宮城 嗣吉	沖繩県文化観光スポーツ部部長	欠 席
委員	島袋 善明	沖繩県土木建築部部長	(WEB)(代理)野原 良治

オブザーバー

	山本 貴弘	国土交通省港湾局計画課港湾計画審査官	出 席
	立道 英樹	第十一管区海上保安部警備救難部次長	出 席

【議 事 録】

1. 開 会

○事務局（橋元） それでは定刻になりましたので、ただいまより那覇港長期構想検討委員会(第6回)委員会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては、御多用中、本委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

議事に入りますまで、日本港湾協会の橋元が進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

あらかじめ報道関係者をお願いいたします。写真撮影は委員の紹介までとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本委員会は、原則公開としております。

このたび、コロナ感染症対策といたしまして、会議中30分に一度はドアを開閉して換気を行うことにしております。また、時間を有効に使いたいと思いますので、長時間となりますが、休憩時間は設けないことにいたしたいと思いますのであらかじめ御了承をいただきたいと思っております。

まず初めに、本日の配付資料の確認をさせていただきます。

お手元には、議事次第、名簿、配席図、那覇港長期構想検討委員会設置要綱、資料1といたしまして、那覇港長期構想(案)、資料2、那覇港長期構想(案)概要版、資料3、那覇港長期構想(案)参考資料、資料4、那覇港長期構想検討委員会の経緯及び今後の予定、資料5、那覇港長期構想検討委員会(第5回委員会)での主な意見の概要及び那覇港管理組合の考え。

参考資料といたしまして、那覇港長期構想(案)への主な意見と対応方針について(パブリックコメント結果)でございます。

以上を配付しております。不足資料等がございましたら事務局までお申しつけください。よろしゅうございますでしょうか。

次に、WEBでこの会議に参加している皆様をお願いいたします。多数の皆様がWEBで参加されておりますので、通信の安定性を確保する観点で、御発言時以外はマイク、カメラともOFFの状態をお願いいたします。会議の途中で御発言を御希望の方は、アプリのチャット機能で発言したい旨をお知らせください。よろしくお願いいたします。

2. 委員の紹介

○事務局（橋元） 続きまして委員の紹介に入ります。人事異動により那覇海上保安部長につきましては、宮本様から大河内様へ代わりましたので御紹介させていただきます。

○大河内委員 よろしくお願いいたします。

○事務局（橋元） そのほかの委員につきましては、お一人ずつ御紹介したいところですが、十分な討議の時間をいただきたいため、お手元の出席者名簿をもって委員の御紹介に代えさせていただきますので御了承を願います。

本委員会は、那覇港長期構想検討委員会設置要綱第5条第2項の規定により、委員会は委員の2分の1以上の出席をもって成立すると定められております。

本日は委員32名中、WEB参加も含めて28名の委員に御出席をいただいておりますので、当委員会は成立しておりますことを御報告いたします。

それでは、以降の議事進行は須野原委員長にお願いいたします。須野原委員長、よろしくお願いいたします。

○須野原委員長 那覇港長期構想検討委員会の第6回委員会を進めたいと思います。まず初めに、事務局から資料の説明方をお願いいたします。

3. 議 事

(1) 資料説明

○事務局（高良課長） 那覇港管理組合計画課 高良と申します。着座にて資料を説明いたしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

初めに、資料4、5、参考資料を説明した後に資料1を説明させていただきます。

資料4を御確認ください。那覇港長期構想の経緯及び今後の予定を御説明させていただきます。令和3年10月に第5回委員会を開催し、その後、令和3年12月27日から令和4年1月26日までの1か月間に長期構想案に係るパブリックコメントを実施しました。それらの意見を踏まえ、長期構想案を取りまとめ、本日の第6回委員会でお示しているところで

長期構想案がまとまりましたら、沖縄県、那覇市、浦添市へ正式に照会した後、那覇港長期構想の策定となります。4月の公表を予定しております。その後、港湾計画の改訂に向けた作業を進めてまいりたいと考えております。

続きまして資料5を御確認ください。「第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要及び那覇港管理組合の考え」について抜粋して下線部を主に御説明させていただきます。1ページ、①内航RORO航路網等のメリットを生かしてアジアの中継拠点港

を目指すことは重要という趣旨の意見。また、その際には上海港やシンガポール港といったアジアの主要港と同様のハブ港を目指すべきなのか、それらの港湾との比較調査が必要ではないか、それらの港湾に見劣りしない施設機能が必要ではないかといった趣旨の御意見がございました。

対応方針です。「アジアと日本を結ぶ中継拠点港」(サブハブ)を目指したい。また、多様な速度帯の輸送ネットワークの選択肢を提供することを目指したいと考えております。

次に、②民間企業における経営活動や輸送効率化に係る投資等を支えるため、長期構想案に位置づけられる物流機能強化の早期実現を求める趣旨の御意見がございました。

対応方針です。那覇港が沖縄県の持続可能な発展を支える物流・人流のボトルネックとならないよう、長期構想・港湾計画において高規格・高能率コンテナターミナルの整備及び複合ターミナル化や国内外RORO船ターミナル、一般貨物船ターミナルの拡充・再編等を位置づけたいと考えております。

2ページの③クルーズ需要が復活した際に、沖縄本島3港(那覇港、中城湾港、本部港)が連携した適切なクルーズ受入体制や、クルーズの高付加価値化の重要性に関する意見。また、那覇港の3バースの役割分担と背後のまちづくりや那覇空港(フライ&クルーズ)との連携の重要性に関する御意見がございました。

対応方針です。多様なクルーズの誘致活動に加え、フライ&クルーズのニーズに応えられるよう、観光資源の発掘等に、今後も関係機関や民間企業等と連携して取り組んでまいります。クルーズ岸壁は、中長期的には那覇港で3バース、本部港、中城湾港を含めて沖縄本島で5バースを確保したいと考えており、港湾管理者間で連携を図りながら、適切な規模の施設を確保したいと考えています。那覇市市街地に近い泊ふ頭(若狭)、大型貨物船を含む那覇港全体の景観や那覇市・浦添市の遠景を臨む新港ふ頭、浦添の自然環境やマリナー等を含む観光・ビジネス拠点を臨む浦添ふ頭のそれぞれにクルーズターミナルがあることで、毎回違う那覇港の景色を楽しむことができると考えます。

3ページの④クルーズ客の適切な受入に必要なCIQ施設や駐車場等の関連施設の整備、ウィズコロナ・アフターコロナにおいてクルーズを安心して楽しめる環境整備、物流と人流の導線分離の重要性に関する意見がございました。

対応方針です。クルーズ船の入港に際しては、那覇港管理組合において船舶ガイドラインへの適合状況を確認するとともに、県内の港湾・医療・搬送・観光の関係機関で構成する協議会において合意を得た上でクルーズ船受入を行うことになっております。物流と人流

の導線分離については、ハード・ソフト両面の渋滞対策の検討を行っており、引き続き国や道路管理者、港湾利用者等と連携して取り組んでまいります。

4ページの⑤クルーズ岸壁や賑わい空間が物流機能と隣接することによって双方の機能が中途半端にならないか懸念があり、長期的には物流機能は中城湾港に集中させ、那覇港は人流や賑わい機能を集中させられないかという趣旨の御意見。また、逆に、海外他港の事例も踏まえ、物流等の港湾機能や背後の街が融合して美しい空間を形成することは可能であり、宮古・八重山地域と那覇都市圏の違いも踏まえ、導入施設の工夫等によって物流機能も含めて那覇港全体が美しくなりたいという趣旨の意見がございました。

対応方針です。港は多様な機能が混在する中で物流・人流等の諸活動が活発に行われる場所であり、貨物船、貨客船(フェリー)、旅客船等の多様な機能により活気溢れる港の姿も魅力的な景観、観光資源の一つになるのではないかと考えております。

那覇港では、クルーズ船や毎日同じ時刻に入出港する定期船、物流活動の景観等を生かし、港・船の景観を臨む水辺空間を生かした賑わいづくりを目指したいと考えております。

5ページの⑥那覇港及び背後のまちについて、生活者や観光客の賑わいスポットとしての魅力向上を望む趣旨の意見。また、そのために水際線の周遊性向上や景観形成等を求める趣旨の意見がございました。

対応方針です。那覇市・浦添市におけるまちづくり等とも連携し、観光の高付加価値化や県民の港へのパブリックアクセス向上を図ることが重要と考えております。港内から市内にかけて散策し楽しめるウォーターフロント空間の面的な展開に向けて、関係者の取組等との連携強化に取り組むたいと考えております。

⑦周辺離島航路や鹿児島フェリー航路を生かした広域観光の振興が重要であり、その拠点としての那覇港の機能強化が必要という趣旨の御意見がございました。

対応方針です。奄美地域・沖縄島北部との人流機能を生かすとともに、アイランドホッピング等に係る旅客船の受入環境の確保も考慮しつつ、沖縄全体の観光振興に資する取組も行っていきたいと考えております。

6ページの⑧那覇港湾施設(いわゆる那覇軍港)や牧港補給地区の跡地開発との連携、那覇空港を含めた一帯のエリアとしての活用の重要性に関する御意見がございました。

対応方針です。那覇港管理組合としては、関係機関等と連携・調整し、那覇空港や那覇港湾施設(いわゆる那覇軍港)、牧港補給地区の跡地利用との連携も考慮して、那覇港長期構想・港湾計画を策定したいと考えております。

⑨港湾機能の強化にあわせて、離島航路に係る船舶や漁船等の入出港も考慮した港内の船舶交通の安全確保を求める御意見がございました。

対応方針です。港湾施設の計画・整備等に当たっては、離島航路の船舶や漁船等も含めた船舶航行の安全性を確保できるよう、関係機関や船社等と調整・検討してまいります。

7ページの⑩荷捌き地や倉庫用地等の物流用地の不足や施設の老朽化・陳腐化等によって、港湾活動における安全性の低下や非効率な輸送、那覇港での事業展開への支障が生じており、改善を求める趣旨の意見がございました。

対応方針です。那覇港の施設は老朽化が進むとともに、近年の船舶大型化や貨物量の増加に対応できておらず、係留・荷役の安全性の低下や非効率な作業等の課題が慢性化していること、倉庫等の保管施設や陸上輸送のための用地の確保が困難な状況であること等を港湾管理者としても認識しております。引き続き、港湾施設・海岸保全施設等の戦略的な維持管理とともに、ふ頭再編による老朽化施設の廃止・利用転換等の抜本的なストックマネジメントや、民間活力の導入も含む持続可能な管理運営体制の確保が必要と考えております。

⑪沖縄本島だけでなく周辺離島も含めた災害時の緊急物資輸送等の拠点としての機能の重要性や、領海保全のための巡視船の係留環境の確保等、安全・安心の確保に関する御意見がございました。

対応方針です。那覇港背後圏への緊急物資輸送等を行う耐震強化岸壁については、沖縄本島だけでなく周辺離島の支援も考慮して、港湾計画や実際の運用を検討してまいります。

8ページの⑫浦添の北側海域は、サンゴや海藻、野生動物が残っている非常に貴重な自然海岸であり、そのようなものが都会のすぐ近く、物流活動を行っている足元で生きているという、パワーを与えているところを楽しんでもらえるような空間にしてほしいという趣旨の意見がございました。

対応方針です。浦添ふ頭地区については、自然環境・景観に配慮した新たな埋立地の規模や形状を検討し、浦添の自然環境を生かした交流・賑わい空間を創出したいと考えております。また、同地区の北側水域には、貴重な生態系を保全する空間として「自然的環境を保全する区域」を設定することとし、同区域を海洋教育等に資する区域としたいと考えております。

⑬国全体のテーマである、「カーボンニュートラルポート」の形成や、港湾の生産性を飛躍的に向上させるための「サイバーポート」の構築に関する施策推進が必要という趣旨の意

見がございました。

対応方針です。那覇港においてもカーボンニュートラルポートの形成に向けて取り組んでまいります。

9ページの⑭海外事例を踏まえ、観光客や地域住民が集まって、港・まちの発展を討論できる施設があるとよいという趣旨の意見がございました。

対応方針です。那覇港のみならずまちづくりや将来ビジョン等に係る学習や議論の場の創出等に取り組んでいきたいと考えております。

⑮沖縄経済の発展、SDGsに対する那覇港の関わり方の明確化やモニタリングに関する意見がございました。

対応方針です。沖縄県は地理的優位性に加え、独自の歴史・風土の中で育まれた人々を惹きつける魅力(ソフトパワー)があり、こうした地域特性を生かすことで、ヒト・モノ・カネ・情報が集積する「万国津梁」となることが期待されます。長期構想委員会資料において、基本戦略とSDGsの目標との関連づけを行っており、今後、県の取組状況と整合を図りつつ、SDGsの取組状況をモニタリングすることも考えております。

続きまして参考資料を御確認ください。令和3年12月27日から令和4年1月26日までの1か月間に実施した那覇港長期構想案に対するパブリックコメントへの主な意見と対応方針について抜粋して下線部を中心に説明いたします。

1ページの(1)昨今の世界情勢は目まぐるしく変化している。3年前と現在では、海上輸送の状況は全く異なっている。先行き不透明な中でも柔軟に対応しながら、港湾政策に当たってほしい。

対応方針です。那覇港の国際競争力の強化、荷主の呼び込みにおいて、経済社会経済の変化等に臨機応変に対応できる柔軟性は重要な視点になると考えています。

御意見を踏まえ、基本戦略1の(1)に以下のように「連続直線バース環境の確保による各種貨物船の機動的運用」と追記したいと考えております。

3ページの(6)新型コロナウイルス感染症により世界の海上輸送が混乱し、コスト高のみならず、スケジュールどおりにコンテナが到着しないことが大きな問題になっています。一方で、那覇ー台湾(高雄)間の海上輸送は比較的安定しています。これまでは輸入貨物は那覇港を經由し本土へ移出することは、コストやリードタイムが課題とされていましたが、那覇港を使うことによる「安定感」がコロナ禍において強みになる可能性、国際コンテナ貨物取扱増大に資する可能性を言及すべきではないでしょうかという御意見がございました。

た。

対応方針です。那覇港の国際競争力の強化、荷主の呼び込みにおいて、輸送ルートのリダンダンシー確保への貢献は重要な視点になると考えています。今般のコロナ渦においても、大手外食チェーンの貨物について、BCPルートとして那覇港で輸入し首都圏等へ移出した事例があります。

御意見を踏まえ、基本戦略1の(2)の③を以下のように、「国内各地の港湾や台湾等のアジア主要港と連携したネットワーク強化、輸送ルート転換促進、BCPルートとしての利用提案等による荷主の呼び込み」と修正したいと考えております。

3ページの(8)冷蔵・冷凍倉庫については電力消費量が高いこともあり、港湾分野におけるカーボンニュートラルに向けてはマイナス要因となる。ただし、これらを再生可能エネルギー由来の電力等で行うことによって、国内外サプライヤー・卸商社・小売・倉庫業者としては、逆に二酸化炭素削減のJクレジットも獲得できることから、那覇港への外航船誘致の大きな目玉となり得るといふ御意見。

対応方針です。那覇港の国際競争力の強化、荷主の呼び込みにおいて、カーボンニュートラルへの対応は重要な視点になると考えております。

御意見を踏まえ、基本戦略2の(1)の①及び基本戦略6の(2)の②を以下のように、「那覇港総合物流センターの拡充をはじめとする、流通加工やコールドチェーン、再生可能エネルギーを活用した物流施設等の臨空・臨港型産業の集積促進に必要な用地の確保及び企業誘致」、基本戦略6の(2)の②は、『「CNP形成計画」の策定と、当該計画に沿った取組推進による脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化（再生可能エネルギーを活用した物流施設、物流・人流に係る船舶への陸電供給、荷役機械等のFC化、バイオディーゼル燃料等の供給環境確保等）』と修正したいと考えております。

9ページの(24)若狭、波の上、辻、西町あたりは昔から大人の歓楽街のイメージもあり、那覇商業高校を超えると夜から朝方は人通りも少なく、暗く、静かになり治安が良いとは言えないイメージの地域です。また、昼間も利用できるような施設もないので、近くに住んでいても海側へ用事がないので行くこともない場所です。まずは波の上ビーチ、うみそら公園までのアクセス道をもっと良くすることだと思えます。利用しやすく行く理由が増えればよりよいかと思います。定期的にマーケット、例えば週末にはキッチンカーが集う、マルシェの開催等はどうかという意見がございました。

対応方針です。散策して楽しいウォーターフロント空間の面的な展開に向けた、周辺地

域における那覇市・浦添市のまちづくりや民間企業の取組等との連携強化（周辺地域の公園街路等と連携した良好な景観創出、文化・音楽・スポーツ等の多様なイベントとの連携、コミュニケーションツール等を活用した案内等）や、みなとまちづくりの拠点をつなぐ水際線のプロムナードの整備に取り組みたいと考えております。御意見を踏まえまして、基本戦略4の(2)の②を以下のように、「那覇ふ頭の明治橋周辺、三重城小型船溜まり周辺の臨港道路用地、若狭海浜公園等の活用（キッチンカー、マルシェ等）による賑わい創出」と修正したいと考えております。

11ページの(29)と(30)です。自然環境への配慮が必要という意見がございました。

対応方針です。浦添ふ頭地区については、自然環境・景観に配慮した新たな埋立地の規模や形状を検討し、浦添の自然環境を生かした交流・賑わい空間を創出したいと考えております。自然環境への影響については、現在、港湾計画改訂に向け、那覇港全体の環境現況調査を実施中であり環境への影響の分析を行い、自然環境に配慮した港湾計画を策定する予定です。また、事業化に当たっては、環境影響評価法等にのっとりした手続を行うとともに、自然環境に配慮した護岸等の構造・工法の導入を検討してまいります。

11ページの(32)海運関係事業者の人材確保に向けて、港湾管理者、直轄の港湾整備部署以外との連携についての御意見がございました。

対応方針です。那覇港の持続可能な発展のためには、港湾における豊かな労働・生活環境の創出や、港湾の持続可能な開発・利用・保全を行う体制確保等は重要な視点になると考えています。

12ページの(33)軍港に関する記述がないのはあまりに不誠実、都市部に残された貴重なサンゴ礁の海を埋めてはならない。那覇の喧騒を抜けて眼前に現れる真っ青な海の開けた眺望こそが沖縄の宝であり、言い訳程度に自然環境を保全する区域を設けても、開発による損失は計り知れないという御意見がございました。

対応方針です。令和3年5月の第27回那覇港湾施設移設に関する協議会において、代替施設と「浦添ふ頭地区における民港の形状案」との整合を図りつつ移設を進めるべく、防衛省において、国土交通省の協力を得ながら、代替施設を北側に位置づける形で技術的な検討を加速化させ、米側との間で代替施設の形状案の具体化を図ることを確認しております。那覇港管理組合としては、将来にわたり、県産業の持続的な成長を図るためには、県最大の物流拠点港湾である那覇港において、浦添ふ頭地区への展開を含め、産業活動に伴う物資輸送の増加に対応できる物流施設の拡充、自立型経済の構築に向けた臨空・臨港型産業

の導入、観光の高付加価値化に資する交流・賑わい空間の形成等に必要な用地確保が必要と考えております。

浦添ふ頭地区については、自然環境・景観に配慮した新たな埋立地の規模や形状を検討し、浦添の自然環境を生かした交流・賑わい空間を創出したいと考えております。

その際、護岸等の緩傾斜化・親水化、緑地の整備等による良好な環境の創出、みなとへのパブリックアクセスの向上に取り組みたいと考えております。

また、同地区の北側水域には、貴重な生態系を保全する空間として「自然的環境を保全する区域」を設定することとし、同区域を海洋教育等に資する区域としたいと考えております。

最後に、資料1を説明いたします。これまでに説明した委員からの意見やパブリックコメントの意見を踏まえ、資料1の長期構想案を取りまとめました。パブリックコメント時点の構想案から変更になった主な箇所を抜粋して説明いたします。また、パブリックコメント時点の資料から一部の図や写真を大きくしましたので、ページのずれが生じておりますが御了承ください。

28ページを御確認ください。基本戦略1について、「アジアの中継拠点港」としておりましたが、ハブ港を目指すとの勘違いされないよう、「アジアと日本を結ぶ中継拠点港」としました。取り組み内容の例について、パブリックコメントの意見を踏まえ、「基本戦略1の(1)の③連続直線バース環境の確保による各種貨物船の機動的運用」を追加しました。

同様にパブコメ意見を踏まえ、基本戦略1の(2)の③に「BCPルートとしての利用提案等」、基本戦略2の(1)の①に「再生可能エネルギーを活用した」をそれぞれ追加しました。

続いて、32ページを御確認ください。第5回委員会の意見を踏まえ、将来像Ⅱに「文化」を追加しました。パブリックコメントの意見を踏まえ、基本戦略4の(2)の②に「(キッチンカー、マルシェ等)」を追加し、那覇ふ頭の明治橋周辺は文言が抜けていましたので追加しました。

同様にパブコメ意見を踏まえ、基本戦略4の(2)の③の括弧内を「(音楽・スポーツ等の多様なイベント)」としました。

続きまして、36ページを御確認ください。我が那覇港管理組合内部での検討を踏まえ、基本戦略5の(1)の②に「無電柱化」を追加しました。

続きまして、38ページを御確認ください。パブリックコメントの意見を踏まえ、基本戦略6の(2)の②に「(再生可能エネルギーを活用した物流施設)」を追加しました。

40ページ以降の配置イメージ図(案)についても、これまでの説明を踏まえ、一部図や文言を修正しています。

そのほかお配りしている資料2「概要版」は資料1を抜粋し、広報用として取りまとめたものとなります。資料3はデータなど参考資料となります。

なお、資料は全て後日那覇港管理組合ホームページで公表を予定しております。参考資料についても個人情報に文言を精査の上、公表を予定しております。

以上で事務局の説明を終了いたします。

(2) 討 議

○須野原委員長 ありがとうございます。

ただいま事務局から長期構想案につきまして、昨年末から行われたパブリックコメントの意見に対する対応並びにそれらを踏まえた前回の長期構想案の変更ほか、また今後のスケジュール等の説明がございました。

今回、委員会としては最終回を予定しておりますけれども、改めて御参加の委員の皆様から御意見を伺っていきたくと思っています。

名簿に沿って初めに学識経験者の皆さんから一旦意見をいただいて、その後、港湾を利用されている方、最後に行政関係ということで考えております。また、WEBで御参加をいただいている委員の方は、各分野のこちらに御出席の方々が終わった後、WEBで参加していただいて御意見を賜りたいと思っています。

初めに、私の右隣の池田委員からお願いします。

○池田委員 池田でございます。大変よくまとめており、今後、これをベースにして那覇港、それから沖縄全体の港が発展していくことを期待しております。クルーズ客船については、そろそろ世界的に動き始めて22万トンの5隻目のワンダー・オブ・ザ・シーズという船も完成して、中国が今ゼロコロナでクルーズの寄港を認めていないので、まだアジアには入ってきておりませんが、中国が開放されるとアジアに22万トンのクルーズ客船がやってきて、その寄港地としては那覇港、それから石垣島、宮古島も含めて対象になるのではないかと考えておりますので、受入体制をぜひ整備していただきたいと思っております。

それとコンテナ船をはじめとする貨物船についてもこの長期構想の中にうまく書き込んでいただけたので、次は実際にポートセールスをしっかりとすると、特に今のコンテナ船ではトランシップコンテナは必ずしもうまく流れていないと思うので、アジアもしくは

欧州からのコンテナ船が寄港して、ここで荷物を積み替えて日本各地への海上物流ルートが確立されればいいなと思っております。あと、離島航路の活性化についても書き込んでいただきましたので、今後期待しているところでございます。

1つだけ心配なのは、いわゆる大災害、これは地球規模で非常に不安定化が進んでいるということがあって、火山それから地震が頻発しておりますので、この沖縄周辺も油断せずにはしていただければと思っております。

この長期構想の中でもハード等は整備をしっかりすると書き込んでいただいておりますが、それが具体的に機能するようなソフト面の対策が今後必要になるのではないかと思っております。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。続いて宮國委員、お願いします。

○宮國委員 大変素晴らしい基本構想案を練っていただきありがとうございます。そしてパブコメにも詳しく丁寧に答えていらっしゃったのではないかなと思います。

この那覇港と中城港湾と両方かもしれませんが、これからクルーズ船を受け入れていく中で、景観に配慮したポートシティ、港湾をつくるということで、こちらのほうにも追記されておりますので、このあたりを周りのステークホルダーと共にこれから丁寧に形づくっていければよいのではないかなと思います。よろしく願いいたします。

○須野原委員長 ありがとうございます。私の左側の渡邊委員、お願いします。

○渡邊豊委員 大変現実に即した将来を見据えた形でまとめられておりますので、全体として非常に私は好感を持っています。

細かい点で少し要望ですが、案の定、台湾とのつながりがデータにも見て取れてどんどん増えています。それで1つ注意を払う必要なのは、那覇港が台湾を重視するという、現在から将来に向けて強調するのはもちろんですが、それをもってお隣の中国を排除するようなイメージは持たれたくないので、ますます中国とのつながりも発展させていきたいというニュアンスは持ってほしいと思います。

それと同時に、那覇港の将来のことを考えたら、物流面では今後、いろいろまだ不安定な面が各国でたくさんあるのですが、東南アジアは必ず伸びてくるといいますので、より一層、台湾を1つ例として、東南アジアの航路をどんどん増やしていくことですね。

あと、ここ2か月の世界情勢を考えると、やはり地政学的に那覇の位置は否応なしに国家セキュリティ的には大変重要になってきます。そういう観点で例えば北米航路でマトソン社さんが入っていることは本当にありがたい話で、マトソン社は本土に行っていません。

東南アジアはすごく力を持っていますし、こういう航路を1つ味方につけて、那覇港に東南アジア、オセアニアも含めて航路が細かく太くなっていけばなと思います。

最後に、人々の賑わいの観点で、パブリックコメントにもありましたけれども、沖縄の人たちがなかなか海に行かない、行っても駐車場代がかかってしまうとか、行く理由がないというような説明が今もありましたけれども、今日は早めに着いたのでロワジールの後ろ側から三重城の遊歩道に行ったのですが、たしかに水辺でいいのですが、本当に5分に1人ぐらいしか人とすれ違わないで、市民の方らしい方と会ったのは1時間の間にたった1人、犬の散歩の方でした。私ぐらいの1メートル70ぐらいの人ですと、あの形状でも海は見えますけれども、海側に堤防のような形になっているのが中途半端で、小さな子供たち、小学生だと海が見えないんです。何箇所か海辺に下りられる階段があったのですが、子供たちだけで下りないでくださいと書いてあって、危ないですよと、そこまでは分かるのですが、私は大人なので階段を下りたんですけど、ごみがいっぱいたまっていて、裸足で入ると多分けがすると思います。

この辺、一番草の根的なところから努力なされれば、本当に那覇の裏側のすぐそばから非常に美しい海があるよとなれば、外から来る方も島の中の方々も気軽に海を楽しめるようになって、ふと目を向けると非常に最先端の那覇港の物流もクルーズも見えるというふうになっていくと本当にいいなと思いました。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。続きまして神谷委員、お願いします。

○神谷委員 琉球大学の神谷です。2点あるのですが、資料1の32ページの基本戦略3の(3)の②、コロナ前で首里城火災前かもしれませんが、観光二次交通で観光バス云々でいろいろ課題があったと思います。申し上げたいことは、ここの②のところは長期にしか〇がないのですが、これは自動運転とかを考えれば長期になりますが、短期でできることがあろうと思うんです。分けてでもいいので、特に短中期で何ができるのか、観光客の利便性とオーバーツーリズム云々を言われたときに、もちろん港湾だけでできることは限られていると思いますが、他の機関との連携等も含めて、短期でできることを分けてでも短期でも取り組んでいきますということを出していただきたいというのが1点です。

2点目は、以前からいわれているIPCCの報告での地球温暖化から自然外力の増加、かつ先々日ですか、南西諸島での地震とかの外力の見直しがありました。

そのことも含めて36ページの基本戦略5の(1)に防災に関して書いていただいているのですが、数年前、10年もたたないかな。沖縄総合事務局さんを中心に沖縄の持続的発展を

支える防災対応推進会議という形で、例えば道路だけとか、水だけという取組がいろいろ全国でされている中、沖縄はそれらをつないだ形で、実際に受援力を高めていきたいと思います。災害時に機能する形でやっていきたいと思いますという取組がなされています。

申し上げたいことは、港湾の防災力を高めるだけではなく、災害時物流を機能させるための港湾という観点で、そういう議論をもうされているので、そういった観点、会議の名称を入れるべきなのかどうかは事務局としての判断はあると思いますが、せっかく沖縄は他の都道府県でできていないことができていっていることもあるんです。なので、そういったところとうまくつなげながら、ハードとしての防災力を高めるだけではなく、もちろんそれは必要ですが、災害時物流を機能させるためのという観点のことを書いていただけたらと思います。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きましてWEBで御参加いただいている方で、初めに琉球大学の森委員からお願いします。

○森委員 初めまして琉球大学の森です。この計画は非常によくまとめられていると思います。大方私の意見も十分反映されていると思います。

特に自然環境の保全とか再生、創設ですね。浦添の西海岸あたりの豊かな自然が残っているところを十分生かして、景観とか機能を生かして経済と自然が共生するような雰囲気をつくっていただけたらといいと、十分そういう計画になっているように思います。

特に子供たちは、海に近いけれども、なかなか海に親しめていない人たちがいる。そういう人たちも含めて豊かな教育といいますか、そういうものができるといいと思います。大体そういうふうにできているのではないかと思います。

1つだけ、資料1の6ページ、私の分野とは関係ないですが、直したほうがいいかなと思うのがありました。6～8行目は趣旨から少し外れているかなと、1)那覇港の現状という文章の中に、現状ではなくて将来のことが3行書きで文に入っているような気がするので、ここは検討していただけたらと思います。おおむねこの案に賛成いたします。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。今委員がおっしゃったのは6ページの1)那覇港の現状のどこですか。よく聞き取れなかったのですが。

○森委員 もう一度読み上げます。1)那覇港の現状で、「島しょ県である沖縄県は」から次の3行までは、当然こういうことが書いてあるのですが、その次の「将来は」の部分は現状ではなくて、将来こういうふうになりたいと目指すと書いてあるんです。

要するに前の3つの文は何が書いてあるかということ、沖縄県はそうであって、那覇港は物流拠点と人流拠点の2つで沖縄県の社会経済活動を支えているという文章ですね。だからこの項は物流拠点の現状はどうか、人流拠点の現状はどうなっているかということを書くのがこの項であろうと。

○須野原委員長 分かりました。将来は別のところということですね。

○大森委員 将来のことは別ではないかと。

○須野原委員長 おっしゃっていることが分かりました。承知しました。ありがとうございました。

○大森委員 大変いい計画書であると思いますのでよろしくお願いします。以上です。

○須野原委員長 引き続きまして沖縄国際大学の富川委員、お願いします。

○富川委員 富川です。私からは3点あります。

1点目は、資料1の那覇港長期構想の24ページにもありますが、特に臨空・臨港型産業の促進とありますが、ここはもう少し膨らませていただけないか。抽象的な要望で恐縮ですがお願いしたいと思います。

と申しますのも、上位規定として新たな沖縄振興計画、それから21世紀ビジョン、現在の振興計画もありますが、この臨空・臨港型産業については、かなりの修復をされて強調されております。特に臨空・臨港型産業の振興と産業イノベーションの推進とか、これは県全体を牽引する産業であると位置づけをされておまして、これは大項目でそうなったかもしれませんが、これから具体的な港湾計画や実施計画に移る場合に、これを根拠にして展開できるような書きぶりをしていただければありがたく思います。

2点目は、長期構想の23ページに基本戦略5とありまして、その中に平時及び災害時の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保とありますが、その後ろに「国際物流ネットワークの機能強化」というものを入れることはできないかと。と申しますのも、御承知のように、災害以外にも、今回はウクライナの戦争行動でかなりのサプライチェーンが寸断されております。そういう意味で、代替ルートも含めた臨機応変にできるような国際物流ネットワークの機能強化という意味で書きましたが、これも具体的にはこれが展開していくと思いますが、それが展開できるようなキーワードを追加してもらえないかということです。

3点目は、同じように基本戦略2にありますように、その中にセントラルキッチンがないものですから、細かい指摘で恐縮ですが、さっき申し上げた新たな沖縄県の振興計画等々にもセントラルキッチンという文言も入っていますので、これも検討していただければと

思います。

説明がちょっと荒っぽいのですが、私のメモは事務局にペーパーで出してありますので、後で御覧になって検討していただければありがたいと思います。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして琉球大学の玉城委員、お願いします。

○玉城委員 琉球大学の玉城絵美と申します。よろしくお願いいいたします。私からは大きく1点お話しさせていただきます。

今回の資料1に提示していただいた那覇港長期構想に関して素晴らしくまとめられていて感服するばかりです。

その中で特に以前の委員でも既に御意見が挙がっておりますけれども、ハードウェアの中長期の計画が具体的になってきたところで、そろそろソフトウェア的な中長期の計画設計も詳細に記載していく段階に入ってきたのかなと思います。

特に32ページの基本戦略3の(3)であったり、36ページの基本戦略5の(2)であったり、そこに書かれているハード・ソフト両面での対応のところ、例えばコンテナ船や観光船の受入れのための適切なアルゴリズム導入であったり、入港予定船のデータのリアルタイム提示や、防災、環境保全、セキュリティから清掃活動まで、特にICTの新規ソフトウェア的な整備には各種調整が必要になってくるかと思います。ICTに絞っていったところはこういったところなんですけれども、ソフトウェア的な面でも実際に運用をどうするかという面でも、中長期の設計も詳細にイメージできやすく、もし可能であれば記載していただけたらと思われま。私からは以上です。ありがとうございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。学識経験者の皆さんに御意見をいただきました。

引き続きまして港湾を利用されている方に順にお願いしたいと思います。初めに島袋委員、お願いします。

○島袋完徹委員 まず那覇港という概念というか、我々は一応、那覇軍港というのは那覇港から除いた形でイメージしていますが、那覇軍港も含めて那覇港という捉え方であれば、那覇港のいろんな港湾機能を那覇軍港も含めてどういった機能にすれば港湾物流の充実した機能ができるのか、この構想の中には、那覇軍港という言葉は出てきましたけど、実際に那覇軍港をどういった港湾機能にしたらいいのか。今の那覇港は狭隘で施設をつくりたくてもつけれない状況がある中で、那覇軍港を港湾施設の中に入れて構想をつくる、

那覇軍港が港湾構想の入るのであれば、ぜひそこを含めた港湾構想をやってほしいと思います。我々港湾運送業者は狭隘な中で作業をしていますから、特に危険だし、船もバースが少なく接岸するのに船が輻輳した場合は沖待ちとかの状況の中で、那覇軍港も港湾施設ということで港湾機能の中に入れてもらえるのであれば、ぜひそこも入れた形での長期的な構想ができないのかなと思うのですが、ここは那覇軍港を港湾の中に組み入れができるのかどうか、そこはよく分からないのですが、可能であればそれはぜひ那覇軍港も組み入れして港湾機能の高度化、強化をやってほしいと思います。

とにかく沖縄は島しょ県であり、海上物流は未来永劫なくてはいけないものですから、那覇軍港がもし港湾施設として使えるのであればそういうところで構想をやっていただきたいなと思います。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。那覇軍港の件は前回もありましたが、特に事務局からコメントはございますか。

○事務局(田原副管理者) 那覇港管理組合常勤副管理者の田原でございます。

那覇軍港、那覇港湾施設については、那覇市、県、それから国のほうで地主を含めて土地利用計画を立てていくことになるかと思えます。その中で港湾管理者として港湾施設の導入ができるかどうかは意見を交換しながら連携を図っていきたいと考えております。

現時点では地主さん、それから那覇市、県、国のほうで計画策定に向けて本格的な作業にまだ入ってございませんので、その成り行きを注視しながら対応したいと考えております。

○須野原委員長 そういうことしか多分できないと思います。当面はそういう対応というところでよろしいですか。

引き続きまして前里委員。

○新垣盛雄委員(代理 前里) 旅客船協会の前里と申します。私どもは離島航路で運航する旅客船、特に泊ふ頭で利用している航路事業者が多いのですが、その中で案の13ページにも書いてあるとおり、荷捌き場が非常に狭いことと、船舶の出港時に重なってお客さんと荷役用の作業が非常に輻輳して危険な状態がある。いわゆる狭い、非効率だということが指摘されておりましたので、この中でも取り組んでいくと記載されておりますので、ぜひそういったものに取り組んでいただいて、泊ふ頭が安全でお客さんに利用しやすいような、賑わいのある港の整備に取り組んでいただければありがたいなと思っております。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございました。引き続きまして新城委員、お願いします。

○新城委員 沖縄県トラック協会の新城でございます。前回の10月に開催された折に陸上輸送の施設として、例えば浦添地先の用地の取得を我々業界に話があるという話から那覇港管理組合様のほうでいろいろ更新していただきまして、それに対して感謝を申し上げます。

また、深く掘り下げたいものがありまして、浦添地先の物流用地の取得は港湾の建設に連動して港湾の背後圏を我々が担うところに当たっては、やはり365日24時間という機能、そういったことを考えた輸送設計をする。車両輸送の場合に、夜間でしか輸送できない特殊輸送車両とか、許可の中で指定された中身の配送や夜間の作業に伴う業務は我々は陸上輸送を担っているものもありますので、そういったことも踏まえて考えれば、用地の中でも自由に設計できるような安価で取得しやすい価格にさせていただいた用地の確保ができましたらということをお願いします。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございました。引き続きまして豊里委員、お願いします。

○豊里委員 沖縄県倉庫協会の豊里でございます。前回の検討委員会でも御案内したように、当協会の加盟企業のほとんどが那覇港に隣接して拠点を構えております。貨物量に対する倉庫がかなり不足しているのが現状でございます。倉庫用地の取得が可能になれば、会員企業としても倉庫建設の計画に現実として取り組むことができると考えております。

それから県内では、国内外の物流業者の大手が大型物流施設をつくる動きが非常に加速しております。地場中小の倉庫業者が中心の当協会の取り巻く環境が非常に厳しくなっております。事業者の発展に資するための物流拠点として安定的、それから効率的な物流環境を創造するため、引き続き倉庫用地の取得、それから港湾機能の強化・拡充をお願いしたいと考えております。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございました。引き続きまして渡邊委員、お願いします。

○渡邊克江委員 一般社団法人那覇市観光協会の渡邊と申します。本当に素晴らしい基本構想案を練っていただきましてありがとうございます。

渡邊委員のお話にもありましたように、市民県民が海を利用しないとの意見がありました。私も含めそうなのですが、生まれたときから当たり前のように美しい海があるので海を眺めて楽しむということをあまりしていないように感じます。

そこで今回の基本構想案にも書き込んでいただきましたけれども、キッチンカーやマルシェはとても大きいのではないかと思います。そこでおいしいお野菜が買える、鮮魚が

買える、軽食などが楽しめるとなると、どうしてもみんな港のほうに集まってくると思います。そこでまた観光客の方々が地元の方との触れ合いを楽しめるような魅力的な港になるのではないかと思います。

観光客にとってもう1つ、那覇港でしか体験できないとか、沖縄らしい特別感のある体験ができるようなものもあるといいのかなと思いました。私からは以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きましてWEBで参加していただいている、初めに那覇港振興協議会の山城委員、お願いします。

○山城委員 那覇港振興協議会の山城と申します。基本的に振興計画案について、どこをどうしろということはございません。ただ、ひと言申し上げておきたいのは、那覇港はとても特殊な条件に置かれた港で、いろいろな船が入ってくる。定期船、クルーズ船、貨物船、離島航路という非常に船溜まりの大きな、しかも回数の大きい港であること、それともう1点は、南のほうに軍港があって、北のほうにキンザーがあるという地勢的な制約があるということで、非常に限られた空間になります。

ですから、いろんなことを全部100%受け入れることは非常に難しいんだなと考えております。ただ港の特に定期貨物船における混雑や狭隘さや危険度はどんどん増しておりますので、この会合とは別途の行政の皆さんや関係者の皆さんのお仕事だと思っておりますが、待たなしですので、早急にまとめ上げてすぐ実行に移っていただけることを要望します。以上です。ありがとうございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして新垣委員、お願いします。

○新垣旬子委員 沖縄県貿易協会の新垣旬子です。皆様、こんにちは。今回の長期構想は那覇港のハード面はよくまとめられており、大変素晴らしい将来像だと思いますが、海外のビジネス現場とのやりとりが多い会員が集う貿易協会としましては、富川先生やほかの委員がおっしゃっているように、輸出入をどんどん世界に向けてスピードよく進めていくためには、物流がスムーズに行われないと競争力で負けてしまうと思うんです。戦争に限らず、国際情勢がこんなに変化し、日本の国際的な立ち位置もどんどん変わっていく中で、それに対応できるよう那覇港のソフト面の機能整備もスピード感を持って進めていただけることを期待しています。よろしくお願いします。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして沖縄県経営者協会の金城委員、お願いします。

○金城委員 経営者協会の金城でございます。長期構想はうまくまとまっていると思

ます。審議会で協議をし、港湾計画の改訂になると思いますが、物流産業、そして観光産業の発展に大きく寄与する港湾であります。そして那覇軍港から浦添西海岸の再開発は次期振計の重要項目であります。したがって、今後の機能拡充に期待をしたいと思います。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして商工会議所連合会の石嶺委員、お願いします。

○石嶺委員 商工会議所連合会の石嶺でございます。私からは1点、目指す将来像Ⅱに観光の高付加価値化に導く港を目指すということで、それに関連して基本戦略3と4でクルーズ船の受入れと、それからウォーターフロント空間の形成というものがございます。クルーズ船の受入れには、フライ&クルーズと、どうしても那覇をクルーズ船の発着港にしないと観光の質の転換という部分では問題が出てくると思います。

クルーズ船会社が那覇港を発着港に選ぶかどうかは、那覇港のブランド力があるかないか、裏を返せばしっかりとしたブランド力をつくらないといけないと思っております。長期構想の最終到達点が2050年ということを考えるのであれば、先ほど経営者協会の金城副会長からもありましたように、那覇空港から那覇軍港、そして那覇港、キャンプ・キンザーに至る一帯を1つの大きなテーマに基づいて整備を行うことが必要だと思っております。

計画でも例えばクルーズターミナルの後背地にホテル等も含めた計画がございますけれども、そこをひとつ大きな一帯の中で1つのテーマで横串が入ったような整備の仕方、規模は小さいのですが、例えば北谷のアメリカンビレッジなどのイメージであの一帯を整備するような形での取組方をぜひお願いしたいと思います。私から以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。学識経験者の方、また港湾を利用されている方の御意見を伺ってまいりました。

引き続きまして行政の委員の方から順次と思います。初めに、那覇海上保安部の大河内委員からお願いします。

○大河内委員 那覇海上保安部長の大河内と申します。まず私は10日ほど前に着任したばかりであります。この資料を拝見いたしまして、現状とそれから今後どのように発展していく方向性なのかが非常にうまくまとめられた長期構想であるという印象を受けました。長きにわたり取りまとめに携わられた皆様の御尽力に心から敬意を表する次第でございます。

まずは港内の安全対策ということで1つ申し上げますと、この長期構想に基づいて今後

はいろいろな段階を経て具体的な港湾整備、各種工事が行われるものと承知しておりますが、港内の安全確保のためには、港湾法に基づいた十分な安全対策を講じていただきますようお願いいたします。

また、巡視船の専用岸壁については、私どもは喫緊の課題でもあり、また長年の懸案でもございました。皆様方におかれましては、私ども海上保安庁の業務、それから巡視船がどのような状況で停泊しているかという状況を御理解いただいた上で、この長期構想の中にも専用岸壁について具体的に明示していただいたことを大変感謝しております。

今後とも巡視船の機能や役割を最大限に活用できるような専用岸壁の実現に向けて引き続きの協力をお願いいただければと思っております。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして沖縄地区税関の宮城委員、お願いします。

○宮城吉和委員 沖縄地区税関の宮城と申します。よろしくをお願いいたします。

税関の立場から申しますと、やはりクルーズ船についてになるのですが、クルーズ船は今コロナでどこも寄港していない状況ではあるのですが、このクルーズ船が戻ってくるに当たっても、やはりC I Q施設が整っているところから戻ってくる可能性が高いのかなと考えていますので、既存の那覇クルーズターミナルもあります、そこも22万トン級がどうのこうのという話になると対応がしきれないのが現状でございますので、クルーズ船を受け入れるに当たってはC I Q施設の充実は欠かせませんので、なるべく早急に整備していただきたいと思っております。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして開発建設部の坂井委員、お願いします。

○坂井委員 沖縄総合事務局開発建設部長の坂井でございます。那覇港は非常に稠密な利用がなされておりまして、クルーズ船、離島へのフェリー等を含めて人流のこと、それからR O R O船や物流、ほかにも先ほどお話がありましたけれども、官公庁船、それから作業船、非常にいろいろな利用がなされておりまして、かなり混雑した状況にあらうかと思っております。

そういう中で、しかも沖縄の経済は全国平均を大きく上回り観光産業を中心に成長を続けております。この那覇港は次のステップをどうしていくか、短期に解決しないといけない課題、それから中長期を見据えるような課題がいろいろあったと思いますが、いい感じ、全体の調和のとれた形で今回は構想をまとめていただいたことは誠にありがとうございます。

す。

我々沖縄総合事務局も那覇港管理組合さんと力を合わせてこの先の港湾計画改訂、さらには必要な施設の整備、利活用等に取り組みをさせていただければと思いますのでよろしくをお願いします。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きましてWEBで出席をいただいている、初めに那覇市の知念委員、お願いします。

○知念委員 那覇市の知念でございます。本計画は那覇市の都市マスタープランとの整合性が一番重要だと、そのすり合わせは十分になされております。ですから、今後も連携作業が重要になってくると思いますので、我々としてはここでも注力したいと考えております。

たびたび話題に上っている那覇軍港の件ですが、今回、27ページに※印の今後の活用可能性があるから、そのものについては進行状況を見ながら言及していきたいという表現にとどめております。

実はここで皆様に1つだけ知っていただきたいのは、那覇軍港は軍港ではありますが、非常にいびつで護岸のほとんどが私有地なんです。以前に切り込んだ上で護岸を岸壁みたいにつくっています。ですから、私有地があります。今の状況で話し合いが進まないまま、ここを港みたいな扱いにするのは非常に難しいという事情がございます。

ですから、港湾計画でこういう位置づけをして、地主の皆さんにも今後どういう選択肢がありますというのをしっかりお伝えしながら話し合いの下で今後の作業をしていきたいと考えております。

先ほど石嶺委員からありました1つのテーマ性を持ったブランド力あるような開発を望むというお声もありました。その際には、グローバルな視点、もう少し視野を広げた視点で考えていく必要があると思いますので、その際にはまたいろいろな意見交換もさせていただいたらありがたいなと思っております。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして浦添市の大城委員、お願いします。

○大城委員 こんにちは。浦添市の大城でございます。浦添市といたしましては、都市部にあつて豊かな自然が残っています。カーミージ周辺の豊かな海域をしっかりと環境保全を行いながら、それを生かしつつ、賑わい交流ゾーンで多くの方にお越しいただけるような観光地、地元の方にも楽しんでいただけるような地域づくりを目指してまいりたいと

思います。

それから今後、キャンプ・キンザーが返還された跡地と一体的な利用を目指して、宿泊等に関しても今課題となっている高価格の宿泊施設等になるように、多くの方に訪れていただくような開発計画をしてみたいと思いますので、那覇港管理組合、それから関係団体とともに早期の開発を目指して頑張ってみてほしいと思いますので引き続き御理解と御協力をいただきたいと思います。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして内閣府沖縄振興局の小澤委員、お願いします。

○小澤委員 私どもといたしましても、国の立場で那覇港の今後の発展に少しでも貢献できるように、今後とも御支援させていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして内閣府沖縄総合事務局運輸部の米山委員、お願いします。

○米山委員 沖縄総合事務局運輸部長の米山でございます。このたびは長期構想、大変な作業だったと思いますけれども、取りまとめいただきありがとうございます。

これまで申し述べさせていただいた意見もよく反映していただいていると思います。特に万国津梁のロマンを感じるウォーターフロント空間の形成につきましては、私も那覇市民として時々三重城周辺などを散策しているのですが、ポテンシャルとして非常に高い地域だと思います。現状ではそのポテンシャルがまだ十分に活かされていないと思いますが、ここは長期構想に示された構想に沿って皆さんがまた連携して、もちろん我々沖縄総合事務局としてもできる限りのお力添えをさせていただきたいと思いますが、自治体の皆様、民間企業の皆様、関係団体の皆様と連携して、ぜひ魅力的なウォーターフロント空間の形成を促進してみたいと思います。オーバーツーリズムにならないように、そういった配慮もしながら進めていきたいと思っておりますので、今後とも何とぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして沖縄県企画部の金城委員、お願いします。

○宮城力委員（代理 金城） 沖縄県企画部交通政策課長の金城でございます。このたび、那覇港の長期構想の案の取りまとめ、大変御苦勞があったと思います。どうもありがとうございます。沖縄の発展のためには、空でいえば那覇空港、海であれば那覇港の発展

に伴って、機能拡張に伴って人流・物流の拡大は非常に重要だと考えております。そういった意味では、今回取りまとめられました那覇港の長期構想は非常によくまとめられた計画だと考えております。

今沖縄県も沖縄の発展のために、交通の面から総合交通体系基本計画をつくっております。その中で、空・海・陸のそれぞれの交通体系から今後の施策との方向性、将来を見据えて定める計画をつくっている最中でございますので、また今日御参加の皆様のご協力を今後ともよろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして商工労働部の小渡委員、お願ひします。

○嘉数委員（代理 小渡） こんにちは。沖縄県商工労働部アジア経済戦略課の小渡と申します。よろしくお願ひします。本来であれば商工労働部長の嘉数が出席するところですが、申し訳ないです。今日は私が代理で出席させていただいております。

商工労働部では、お示しいただいた構想の中で、将来像Ⅰの物流と産業の部分が大きく関わってきます。その中で、これまで商工労働部内で議論した結果、特に大きな修正はなく、よくここまで取りまとめていただいたと思っております。ありがとうございます。

また今後は、この構想の実現に向けて那覇港の活性化等々も含めて那覇空港との連携も重要になってくるかと思いますが、そういう視点も持ちながら、引き続き那覇港管理組合、また関係者の皆様と連携しながら実現に向けた取組を進めていきたいと考えております。ありがとうございました。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして沖縄県土木建築部の島袋委員、お願ひします。

○島袋善明委員（代理 野原） 土木建築部長の島袋が急遽業務が入りまして中座しております。私、土木建築部参事の野原がコメントしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

今回の長期構想の中で中城港湾との機能分散、有機的連携という項目が設けられておりました。中城港湾を管理している県としても十分に連携を図りながら進めていく必要があると思っております。

また、那覇港の国際コンテナターミナル貨物を有していることから、東アジアにおける地理的優位性を生かした中継拠点としての機能が期待されております。県としても那覇港と連携しながら那覇港の長期構想の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。環境部の新城委員はつながりますか。電話でつながりますのでしばらくお待ちください。

○松田委員（代理 新城） 那覇港長期構想案について、どうもお疲れさまでした。環境部としましては、沖縄県環境影響評価条例を所管しているところですが、今回の埋立てにつきましては、当初の案から形状がだいぶ変わっていることがありますので、アセスの手続を進めるに当たっては、沖縄県の環境政策課がアセスの条例を担当していますので、そことの調整しながら進めていってもらえればと思います。よろしく願いいたします。以上です。

○須野原委員長 ありがとうございます。御出席の委員の皆様から御意見を伺ってきましたけれども、ほかに改めて追加の御意見、あるいは御質問等がありますでしょうか。特にございませんか。

そうしましたらオブザーバーでお二人御参加いただいていますので、初めに国土交通省港湾局計画課の山本計画審査官から御意見ををお願いします。

○オブザーバー（山本） 山本でございます。本日は大変ありがとうございました。本日の委員会が最終の取りまとめの委員会ということですが、まさに今回の長期構想は大変な長期間にわたって皆さんに取り組んでいただいたということだと思っております。さらには関係者の皆様に大変丁寧に御議論をいただいた上で今日取りまとまったということで考えております。これまでの皆様の御尽力に本当に心より敬意を表したいと思っております。

今日の中身は、物流、クルーズ、水際線の活用といった様々な観点から御意見がありました。今後の那覇港の発展に必要な取組が全般的に盛り込まれた非常に充実した内容の長期構想ではないかなと考えております。冒頭、スケジュールの説明にもございましたけれども、この次の段階は港湾計画の策定作業になるということでございます。本日の長期構想の内容は我々としても今後の港湾計画策定手続の中でしっかりと受け止めていきたいと考えております。

まだ計画改訂の手続、それからその先の実現の取組が残っておりますので、引き続き関係者の皆様にはそちらの実現に向けて御協力を賜ればと、ひいては那覇港がさらにより港になるように取組を引き続き進めていただければと思っております。私からは以上でございます。本日はありがとうございました。

○須野原委員長 ありがとうございます。引き続きまして同じオブザーバーで御参加

いただいています第十一管区海上保安部の立道次長、お願いします。

○オブザーバー（立道） 第十一管区海上保安部の立道と申します。オブザーバーにも御発言の機会をいただきましてありがとうございます。

私は第十一管区海上保安部の中でも現場業務を担当するセクションにございまして、そういう意味では那覇港に関しては利用者の立場としてこの委員会にオブザーバー参加をさせていただいております。

今回の長期構想案の中で、我々巡視船につきましては、先ほど那覇海上保安部長からも御発言がありましたけれども、新港ふ頭地区の北西端に巡視船の専用の岸壁を記載いただいているところでございまして、これを記載していただくことによって、案の中にもございますとおり、領海保全活動の安定的な実施に我々としても必要だと認識してございまして、これが設置されることによって国民、県民の皆様へ安全・安心を提供できると考えておりまして、この委員会の中でも御理解をいただいていると認識してございますので、引き続き関係各位の御理解を賜りますよう御協力をよろしく願いいたします。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。本日御出席いただきました皆さんに御意見をいただきました。ほかに特に御意見はございますでしょうか。

宮國委員、お願いします。

○宮國委員 琉球大学国際地域創造学部の宮國と申します。先ほどあまり詳しく申し上げられなかったのですが、最後に少し述べておきたいと思います。

私は大学でまちづくりを教えておりますが、いろいろなところでアンケート調査などを行っております。2018年度に那覇港のクルーズバースでアンケート調査、クルーズのお客様がどのように沖縄観光を捉えているかというアンケート調査だったのですが、私と学生3人ぐらいでクルーズバースで一日中、アンケート調査を行ったのですが、そのときに港湾施設とソフトとの兼ね合いがうまくいっていないと大変感じました。

那覇港クルーズバースには観光案内所があるのですが、午前中のみ機能していて、午後には大きなクルーズ船が止ったのですが、観光案内をする人が誰もいない状況が見られました。そしてクルーズ船を利用する観光客の中にはバックパッカーもいれば、老夫婦もいまして、バックパッカーの人たちは適当にWEBを見たり地図を見たりして国際通りに流れていくのですが、老夫婦はどうしていいかわからない。タクシー乗り場はどこかという感じでいろんな人に聞くのですが、観光客がほとんどで案内する人は誰もいなく、私たちア

アンケート調査をしている者たちは名札を付けておりましたので私たちに聞いてくる感じで、港湾のクルーズ船観光客の満足度が感じられない結果も出ていました。

この計画書にもありますが、これからは中長期的な意味でも港湾がどのように受け取られるかは、港湾施設も大事ですけれども、それをサポートするソフト、人々の協力、ステークホルダーの関与が必要だと思います。その辺を観光の面からいえば細かくやっていただければいいのかと感じました。これが1点。

あと、SDGsの関連ですが、マスタープランのところにもSDGsの17の目標のうちのいろいろなところを満たしているという図がありましたけれども、SDGsの目標の1つずつの中には細かくターゲットがあります。目標1の下ではターゲットが20とか、目標2の下ではターゲットが10とか、細かいターゲットがございますので、その点も細かいターゲットにまで踏み込んで長期構想計画が行われていけばいいだろうと感じますので、その辺も細部にわたってやっていただけるようによろしくお願いします。大変素晴らしい基本構想を皆様がこれを全うしていただけることを楽しみにしております。ありがとうございました。

(3) 議論の総括

○須野原委員長 ありがとうございました。ほかに御意見等はございますか。特にございませんか。

長期構想案につきまして、基本的には今日の委員会でおおむね御了解をいただけたと思います。ただそういう中で御意見から少し加筆修正等をしたほうがいいのかという御意見もございましたので、それにつきましては事務局で御意見をいただいた委員の方に確認していただきたいと思っています。その後、最終的な修正につきましては、大変僭越ですけれども、委員長に御一任いただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。

那覇港長期構想委員会は今回で最後になりますけれども、本日いただきました御意見、御要望を含めて事務局で最終整理していただき、さらにいただいた委員の方には少し確認していただいた上で最終案にさせていただけたらと思います。その後、港湾計画への反映並びに沖縄県のさらなる発展につながっていけばと思っています。

事務局のほうからよろしく申し上げます。

○事務局（照屋参事監） 少しよろしいでしょうか。事務局の照屋でございます。よろ

しくお願ひします。

本日は多くの貴重な御意見をどうもありがとうございました。人流の面、それと物流の面に加えて離島航路の安定的な確保のための施策、それと大災害時、緊急時の物流のネットワークの確保が昨今の状況も踏まえて重要性を増していると理解しております。本日も御意見をいただきましたので、この点につきましては、内容を精査してどのように表記していくかを委員の方を含めて委員長とも相談させていただきたいと思ひます。

その他の意見につきましても少し修正が必要な部分もございますので、そこら辺はまた委員の皆様と、それと委員長と相談させていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。以上でございます。

○須野原委員長 ありがとうございます。事務局のほうもその対応をしていくと思ひますので、委員の皆様にも改めて御確認ができましたら引き続きよろしくお願ひいたします。

それでは、事務局にマイクをお返ししたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

(4) その他

○事務局（橋元） 須野原委員長、どうもありがとうございました。

今委員長からお話がありましたように、本委員会は今回をもって最後となります。したがって、那覇港の港湾管理者を代表いたしまして常勤副管理者である田原武文より委員の皆様へお礼の御挨拶を申し上げます。田原副管理者、よろしくお願ひいたします。

4. 常勤副管理者挨拶

○那覇港管理組合（田原副管理者） 本日はお忙しい中、御出席、貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございました。また、須野原委員長におかれましては、長期構想の取りまとめや御助言をいただき、委員、オブザーバーの皆様におかれましては、これまでの委員会も含めた活発な御討議、御意見、御提案、叱咤激励等をいただき、重ねてお礼を申し上げます。

ここ数年、新型コロナの世界的流行に伴う社会経済に対する影響や海上物流の混雑や困難、世界情勢変化に伴うエネルギー価格の高騰などに直面する一方で、次世代に向けたカーボンニュートラル対応への要請の高まり等、社会経済情勢も目まぐるしく変化しているところであります。

また、新型コロナウイルスの影響で沖縄県経済が甚大なダメージを受け、国内外の貨物を取り扱う那覇港では日用品や経済活動に必要な基本物資は平年並みの取扱いを維持し、大きな落ち込みを回避しております。これもひとえに船社、港湾運送事業者等の港湾関係

者の多大な貢献によることが大きいと考えております。

那覇港長期構想検討作業は平成25年の第1回委員会、そして平成28年に第4回を開催した後、6年間の中断を経て今回の第6回にたどり着くという9年にわたる長い道のりでありました。今年は沖縄が本土に復帰して50年、また那覇港管理組合が設立されてから20年の節目の年であり、この記念すべき年に長期構想を取りまとめることができたことは、関係者の皆様には心よりお礼を申し上げます。

今回、取りまとめた長期構想の実現に向けて、まずは速やかに港湾計画改訂を行い、必要な施設整備について関係機関等と連携して取り組んでまいります。また、那覇港のみならず、国全体のテーマであるデジタル活用も含めた物流効率化やカーボンニュートラルへの対応についても、関係機関や港湾利用者の皆様と連携して取り組んでまいりたいと考えております。

この長期構想策定を新たなスタートに那覇港管理組合としましては、那覇港が沖縄県、ひいては我が国の環境保全にも配慮した持続可能な発展を支える新たな時代の新たな万国津梁となれるよう全力を尽くす考えであります。

今日の挨拶を結ぶ前に、私事ではありますけれども、5月29日をもって常勤副管理者の任期満了となっております。任期中に長期構想を取りまとめることができたことは、これもひとえに須野原委員長をはじめ、各委員、オブザーバーの皆様、行政、民間を含めた港湾関係者の皆様、そして那覇港管理組合職員のたゆまぬ努力の賜物だと思っております。

今後とも那覇港の開発・発展に向けて委員をはじめ、皆様方には一層の連携・強化、それから御支援、御協力をお願いいたしまして私の挨拶とさせていただきます。ニフェーデービル、ありがとうございました。

○事務局（橋元） 田原副管理者、どうもありがとうございました。

以上をもちまして、那覇港長期構想検討委員会(第6回)委員会を閉会いたします。

委員の皆様には、長時間にわたりまして熱心な御議論をありがとうございました。

5. 閉 会